

THANKS

(VOL. 228)

BUSINESS NEWS LETTER

発行日：平成28年6月1日
発行者：有限会社サクスマインドコンサルティング
連絡先：〒359-0043
埼玉県所沢市弥生町1792-10
TEL:04-2907-1715
E-MAIL：info@thanksmind.co.jp
<http://www.thanksmind.co.jp>

特集

「資金繰りとキャッシュフロー⑪」・・・キャッシュフロー計算書

本誌では、「資金繰りとキャッシュフロー」というテーマを特集しています。
前回までは、「与信管理」について解説していましたが、今回からは、いよいよ「キャッシュフロー計算書」に入ります。

「キャッシュフロー計算書」は、「損益計算書」「貸借対照表」に続く、第三の決算書。
会社の健康状態をチェックするために重要な資料ですが、苦手な方が多いです。
一步一步進んで行きましょう。

1. キャッシュフロー（資金繰り）の重要性・・・本誌218号、219号の復習

「儲かっているのに、なぜ倒産してしまうのか？」
実際に会社を経営している方の中でも、こんな疑問を持っている方がいます。
本誌218号、219号で解説した通り、「儲かっている（＝損益計算書における黒字）」ということと、「会社が倒産する」ということは別の話です。
※詳細は、以下のバックナンバーを参照ください。
<http://www.thanksmind.co.jp/newsletter.htm>

「倒産とは何か？」
「どうして、損益計算書の儲けと、実際の手元のお金の残金が違うのか？」
ここで、もう一度確認しておきましょう。

「倒産」とは、払うべきお金を払えなくなってしまった状態
⇒ いくら損益計算書で利益が出ていても、倒産することがある！
＝黒字倒産！！

黒字倒産の理由は、ひとことで言えば、「**損益計算書の収益／費用と、実際の現金の入金／出金とはズレがある**」からです。

例えば・・・

- 1) 売上高は、売上債権（売掛金、受取手形）になっている限りは、実際には入金されません。
- 2) 売上原価は、買掛債務（買掛金、支払手形）になっている限りは、実際には出金されません。
- 3) 売上原価は、販売した分だけが計上されます。
従って、在庫になっている分は未計上ですが、在庫分もお金は払います。
- 4) 減価償却費は、毎年1年分のみ計上されますが、実際には、購入した年は、全額を一括で支払っています。また、翌年からは出金はありません。
- 5) 水道光熱費や通信費は、使った分だけその月に計上されますが、実際の支払は翌月以降になります。従って、期をまたぐと、費用と出金にズレが生じます。
- 6) 消耗品はツケで購入した場合、費用は買った月に計上されますが、実際の支払は翌月以降になります。従って、期をまたぐと、費用と出金にズレが生じます。
- 7) 法人税や消費税等の税金は、その年の損益計算書に計上されますが、実際の支払は、翌年になる分もあります。

2. 「キャッシュフロー計算書」の作成の目的

「損益計算書を見るだけじゃ、その会社の状況は分からないじゃないか！」
こんな声が聞こえてきそうですが、まさにその通りです。

「キャッシュフロー計算書」を作成する目的は、損益計算書とは別の観点から企業の資金状況を開示すること。

すなわち企業の現金創出能力と支払い能力を査定するために、役立つ情報を提供することです。

欧米諸国では、1980年後半から1990年代初頭にかけて、すでに、その作成が制度化されていました。

日本においては、国際会計基準の導入の流れから、2000年3月期から上場企業に作成が義務づけられました。

現在では、主要な先進国の企業会計制度において、貸借対照表と損益計算書に次ぐ第3の財務諸表として位置付けられています。

3. 「キャッシュフロー計算書」とは？

「キャッシュフロー計算書」とは、会計期間における資金（現金および現金同等物）の増減、つまり、実際の入金（収入）、出金（支出）の状況を表示するものです。

その構造は、次ページの通り、企業活動の内容に合わせて、以下の3つに区分されています。

- 営業活動におけるキャッシュフロー
- 投資活動におけるキャッシュフロー
- 財務活動におけるキャッシュフロー

I 営業活動によるキャッシュフロー	
商品の仕入・販売や、社員への給与の支払い等、 本業の営業活動から、どれだけキャッシュを稼いだか？	
営業活動によるキャッシュフロー	××××
II 投資活動によるキャッシュフロー	
固定資産や有価証券の購入・売却等により、将来の利益獲得の ために、どの程度のキャッシュを支出または回収したか？	
投資活動によるキャッシュフロー	××××
III 財務活動によるキャッシュフロー	
借入金や株式の発行等により、どの程度の資金を調達し、また 返済したか？	
財務活動によるキャッシュフロー	××××
a 現金および現金同等物の増減額	××××
b 現金および現金同等物の期首残高	××××
c 現金および現金同等物の期末残高	××××

「現金同等物」とは、容易に換金可能で、価値の変動リスクが小さいものを言います。
具体的には、預金や公社債投信等であり、貸借対照表の「現金・預金」とほぼ一致します。

4. 「キャッシュフロー計算書」の作成方法

それでは、「キャッシュフロー計算書」は、どのように作成するのでしょうか？
作成方法としては、以下の「直接法」と「間接法」の2つがあります。

① 直接法

直接法は、実際のお金の動き（収入、支出）を主要な取引ごとに集計し表示するものです。

I 営業活動によるキャッシュフロー	
・営業収入	××××
・原材料、商品の仕入支出	－ ××××
・人件費支出	－ ××××
・その他の営業支出	－ ××××
小計	××××
・利息の支払額	－ ××××
・法人税の支払額	－ ××××
営業活動によるキャッシュフロー	××××
II 投資活動によるキャッシュフロー	
・固定資産の取得	－ ××××
・固定資産の売却	××××
・有価証券の取得	－ ××××
・有価証券の売却	××××
投資活動によるキャッシュフロー	××××
III 財務活動によるキャッシュフロー	
借入による収入	××××
返済による支出	－ ××××
配当の支払額	－ ××××
財務活動によるキャッシュフロー	××××
a 現金および現金同等物の増減額	××××
b 現金および現金同等物の期首残高	××××
c 現金および現金同等物の期末残高	××××

直接法は、それぞれの項目について、収支の全貌がつかめます。
 その結果として、将来的なキャッシュフローの予測が容易になります。
 しかしながら、その一方で、各項目のデータを個別に管理・集計しますので、作成に手間がかかります。

② 間接法

間接法は、損益計算書の「税引前当期利益」を出発点として、「損益計算書」「貸借対照表（2期）」を使って、実際のキャッシュの出入りを**調整**して作成するものです。

「損益計算書」と「貸借対照表」という、これまでの資料を基にしますので作成が楽であり、ほとんどの会社は、こちらの方法を使っています。

なお、当然のことながら、直接法を使っても、間接法を使っても、「現金及び同等物の増減額」という結論は同じになります。

<p>I 営業活動によるキャッシュフロー</p> <ul style="list-style-type: none"> ・税引前当期利益 ・減価償却費 ・売上債権の増加 ・棚卸資産の増加 ・買掛債務の増加 ・法人税の支払 <p>営業活動によるキャッシュフロー</p>	<p>これを基に以下を調整</p> <p>キャッシュの増加（資産取得時に既に一括払いしているため）</p> <p>キャッシュの減少</p> <p>・</p> <p>キャッシュの減少</p> <p>キャッシュの増加</p> <p>前期末払法人税+当期払込分</p>
<p>II 投資活動によるキャッシュフロー</p> <ul style="list-style-type: none"> ・固定資産の取得 ・固定資産の売却 ・有価証券の取得 ・有価証券の売却 <p>投資活動によるキャッシュフロー</p>	<p>キャッシュの減少</p> <p>キャッシュの増加</p> <p>キャッシュの減少</p> <p>キャッシュの増加</p>
<p>III 財務活動によるキャッシュフロー</p> <ul style="list-style-type: none"> ・借入金の増加 ・配当の支払 <p>財務活動によるキャッシュフロー</p>	<p>キャッシュの増加</p> <p>キャッシュの減少</p>
<p>a 現金および現金同等物の増減額</p>	
<p>b 現金および現金同等物の期首残高</p>	
<p>c 現金および現金同等物の期末残高</p>	

ということで、今回は、間接法に基づき、実際にキャッシュフロー計算書を作成してみましょう。

<続きは次回>